

YMCA

K U M A M O T O

NEWS



June 2010
vol.457

6

基本聖句 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい
(ローマの信徒への手紙第12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 地球環境の保全 生涯学習の推進
ウエルネス活動 ボランティア活動 平和な世界

■ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp
■ブログ kumamoto-ymca.wablog.com
■メールマガジン登録 www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi



●発行所／(財)熊本YMCA／〒860-8739熊本市新町1-3-8 TEL096-353-6397代
●編集人／堀 雄二 ●発行人／堀 弘雄 2010年6月1日発行(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円(送料60円)

CONTENTS

- ② 2010年度会員総会
- ②・③ event report 西日本地区YMCAリーダー研修会
みなみYMCA母の日プログラム
ファミリープログラム
- ③ 2010年度常議員紹介
アガベNo.51「大切にしたい価値」
- ④ Life 第27回
フードマイレージプランナー・アソシエート 宮田敏子さん
YMCA NETWORK (地域YMCA情報)
水前寺幼稚園/尾ヶ石保育園/リフレスおおむた

わたしと聖句



詩篇第16篇10節〜11節

あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく／あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず／命の道を教えてくださいます。わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い／右の御手から永遠の喜びをいただきます。

本当の「喜び」って何だろう？

人生60年を生きてきて、色々な喜び

を味わってきた。しかしほとんどのことは、良い思い出としてタンスの隅にしまい込まれ、滅多に取り出すことはない。でもこうして過去を振り返る機会が与えられ、あの時、この時、痛みや悲しみ、悩み、そうしたマイナスに思えるような出来事さえも、感謝の思いに変えられるから不思議だ。いや、赦され愛されていることを知るなら、当然といえるかもしれない。なぜって、そうイエス様は、呪いの木に掛けられ血を流され、命をかけて私を罪から解放してくださったのだから。

うことを知ったから、マイナスもプラスに変えられる。イエス様の十字架にはそのような力がある。今日も私はイエス様の御顔を仰ぎ、今も生きておられる永遠なるお方から与えられる喜びを楽しんで生きる。これから先どの人生が与えられているかはわからないが、私は、「ひとつのことを主に願ひ、それだけを求めよう。命のある限り、主の家に宿り／主を仰ぎ望んで喜びを得／その宮で朝を迎えることを。」(詩篇27:4)

日本ナザレン教団熊本キリスト教会

中出 牧夫

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」

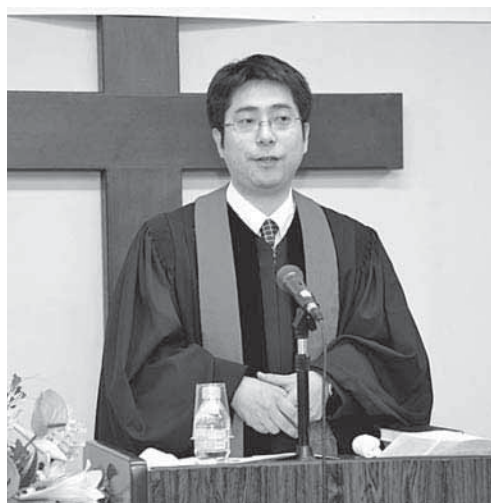
2010年度 会員総会奨励

ローマの信徒への手紙、12章15節の「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」。聖書の中には、いくつか「有名な言葉がありますが、これもその一つです。今回は、この完成された素晴らしい言葉に、しっかりと向き合っていきたいと思います。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」。このように言われて、皆さんは「よく分かった！ 実行しよう！」とスムーズに歩みを進めることができるでしょうか。むしろ、「いやあ、立派な教えだとは分かるけど、なかなか難しい…」と感じる人が多いと思います。「家族の中であれば、できるかもしれない」と思えるならまだしも、今や家族間でさえ、時間や感覚の「共有」が難しくなっています。社会においても「関係の希薄化」が著しい状況です。しかし、この言葉の実践は「難しい」「無理だ」と聞き直るのではなく、このような時代だからこそ、私たちはより一層「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」という生き方を大切にしなければなりません。

この言葉をさらに深めるために、私は2つの言葉を思い出しました。一つは「愛の反対は憎しみではなく、無関心である」というマザー・テレサの言葉。もう一つは、イエスが話された「金持ちとラザロ(ルカによる福音書16章19〜23節)」という例え話です。その前半部分を紹介しましょう。

「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい



日本キリスト教団熊本草葉町教会牧師 難波 信義さん

麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、その食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。やがて、この貧しい人は死に、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。そして、金持ちは陰府(よみ)でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばに居るラザロとが、はるかかたに見えた。ぜいたくに暮らしていた金持ちは死後の世界で苦しみ、貧しく病人だったラザロは天国に行った、というお話です。皆さんはどう感じられたでしょうか。

「ぜいたくに遊び暮らす」というのは、悪いことを連想させ、「死後に裁かれた」と理解できな

くもありません。しかし、ここには決して「この金持ちが悪人だった」とは書かれておらず、不道徳なこと金をつぎ込んだわけでも、彼の富が貧しい人々から不当に搾取することによって築かれたとも書かれていません。「彼は遊び暮らすことができたし、働かなくてよかった。なぜなら、お金があったから」。それだけのことなのです。それでは、なぜ死後に苦しむことになったのでしょうか。この話には、もう一人の登場人物・ラザロがいます。ラザロは貧しいままに死にますが、天使によって天国の宴席に招かれます。これをイエスが話されたということは、「自分の楽しみのためだけに富を使うな。ぜいたくをするな。貧しい者を助けよ。施しをせよ。そうでないと、この金持ちのように死後、苦しい目にあうぞ」ということを示されたのでしょうか。

ここで、「愛の反対は無関心である」というマザー・テレサの言葉が力ギとなります。このイエスの例え話のポイントは、「施しをしなかったこと」でなく、この金持ちの「無関心」にあることがわかります。門前にいたラザロは、食物が与えられないどころか、追い払われさえもしていませんでした。ラザロは誰にも心にかけることはなく、関心を持ったのは犬だけ。ここに強烈に描き出されているのは、愛の対極にある「無関心」です。その意味において、この金持ちの話は、私たちに無関心ではありません。

一方で神の愛も豊かに描き出されています。誰からも関心を向けられず、犬にしか顧みられなかったラザロ。独りぼっちで死に、葬られることすらなかったラザロ。しかし、そのラザロを目に留め、関心を寄せる方がおられたのです。すなわち「神の関心」。「神による人間への関心」です。

この事実には、私たちは悔い改めへと導かれます。自分の存在が尊ばれていることを知ってこそ、他の人の存在を尊べるようになるのだ、自分が愛されていることを知ってこそ、隣人に向けて愛の一步を踏み出せるようになるのだと。神は今も私たちに関心を持って関わってくださり、この大きな恵みにより、私たちは「無関心」という冷たい関係から解放されるのです。

改めて、今年度の基本聖句「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」を考えてみましょう。この言葉は、単なる理想論として実行不可能と捉えるのではなく、私たちが忘れてはならないのは、神は喜ぶ私と共に喜んでくださり、神が泣く私と共に泣いてくださっているということです。神が私たちの一人ひとりに関心を持って関わってくださる。ゆえに私たちも、隣人に関心を持ち、この関係性の中で、本当の意味を理解しなくてはなりません。この会員総会にあたり、1年の歩みを振り返り、その中で神の恵みである「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」歩みへと、今日、この瞬間、この場から、進めていきたいと思えます。